

第14回 一陽会学会 開催される

2016年1月8日(金) 成増アクトホールにて、2015年度一陽会学会が開催されました。

今回は「温故知新～新たな一步が視野を広げる～」というテーマで、各職場から研究発表や講演、シンポジウムが行なわれました。一陽会職員176名、地域の方々・翠会 HCGの方々17名、計193名の方が参加されました。今回は、総合司会を務められたお二人に感想を載せていただきました。



一陽会学会 総合司会(補佐)を担当してみて

今回の学会は、中央教育委員になって2年目で2回目の学会でした。総合司会という役割は、職業が事務ということもあり大勢の人前で話す機会がないため、初めての経験で本番では台本を作ったのにも拘らず、頭が真っ白になってしまいました。こういう経験はなかなか普段出来ないことなので、良い経験として大事にしまっておこうと思います。

学会の内容に関して、いつもは裏方なのでじっくり聴く機会がなかったのですが、今回は午前中しっかり舞台袖から聞かせていただいて、常に人との係わり合いを大事にされている職業の方々の研究発表と教育指導発表なので、探究心と洞察力が優れていると改めて感じました。私も総務の一員として良い刺激になりました。次の学会もそれぞれの研究発表を聞かせて頂くのが楽しみになりました。

今後翠会となっても、今までのような一陽会らしい学会を続けて欲しいとひしひしと感じました。

管理課：柴田

2015年度 第14回一陽会学会に参加して

今回の学会は「温故知新～新たな一步が視野を広げる～」というテーマで開催されました。テーマは、「これからの医療・福祉の世界での生き残り方を模索するために、今まで自分たちが実践してきた事を確認する」という現場の意見から生まれました。当法人に就職して7年目と経験の浅い私にとって、大変好奇心をそそられるテーマでした。プログラム内容も、一般演題では若い職員による新しい取り組みの演題が多く、シンポジウムや講演では長きに渡り一陽会に貢献をしてきた発表者を中心としており、まさに“古き良き文化”と“新しき可能性”を体感できる充実した内容だったと思います。特に印象に残ったのは、森山公夫名誉院長による講演です。森山名誉院長は講演の中で「時代は螺旋状に繰り返される」と語られました。それを聞いて、私は“事象において重要な本質は変わらない。しかし事象を取り巻く環境や人物は変化しているため、本質を見失いやすい”という事を学びました。

現在の医療や福祉を取り巻いている環境は、複雑な側面が多いと感じます。しかし、自分たちが“何の為に働いているのか”や“誰の為に働いているのか”という、本来の目的を見失わないことが、当法人の発展に繋がっていくのではないかと、考えさせられる講演でした。私個人としても、原点を見失わないように、日々働いていきたいと強く思いました。

最後に、今回学会を企画して下さった実行委員の皆様や発表者の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

作業療法室：山下



学会終了後懇親会(新年会)も盛り上がりました。

